

技 術

アルドーザ―其後の作業能力の調査に就いて

本年の二、三月合併後の社報で御紹介した様に當社で購入したアルドーザ―は八戸と十二戸と二重宛合計四重であるが、その中現在北海道支店と仙臺支店とで十二戸が一重宛就業して居て、残りの分は東京支店と名古屋支店とに八戸が一重宛待機して居る状態である。

仙臺支店の厨川現場で作業中のものに就いて當社の八木原君と購入先のサービスマンとで現地調査をした結果報告を左に掲げる。

調査の要領

本機の作業力は現在のままで全能力なのか。又は機關の工合が悪い爲に表示出力が出ないのか。

調査の結果

ロードをかけて廻轉が落ちた時加速せんと噴射弁を開いても廻轉上らず、規定の廻轉が出ない。

燃料供給浮子室から燃料がオーバーしてゐる等から見て、燃料供給系統の故障により機關の表示馬力が出せないものと認められる。

故障箇所

燃料供給系統の不良

アリバリー、バルブ、ノズル不良

オーバー作動不良

右に依り各気筒の燃費不順調にして出力不十分

修理處置

送油系統掃除手入

部品を良品と交換

調整手入

各気筒燃費調整

處置後の結果

機關各気筒の燃費順調にして廻轉上昇し出力充分となる。

オーバーロードせる場合にも機關の廻轉戻らず、キヤムピラー空轉スリップする。

故に該機關の表示馬力は充分出せるものと認められる。

作業能力は一回の排土量約三十六切（高二尺、巾六尺、厚三尺）程度

備 考

右調査の結果手入其他の爲アルドーザ―の運轉取扱には少くも二人を要す。

地均に多少の高低の出来るのは止むを得ないが、或程度は運轉員の技倆による。

アルドーザ―のみにて地均を完全にせんとするのは無理であつて、之にはグレーダーとかキヤリオー

ルとかを併用すべきである。

機體整理には使用適當と認める。

以上が仙臺支店厨川現場に於ける現地調査報告であるが、北海道支店の田中機體主任からの報告には

アルドーザ―、トラクタ―共製作組立に良心的と認められない個所が多く、アレイキライニングの鐵鉸

鉸め等も目に見えない個所は糊麻化してあつて、日本

の製作者の根性の下劣さを指摘して來て居るのであるが、東京支店及名古屋支店にある分も同様な

のであつて、電氣熔接等も如何にも良い加減のものであるので、之等の修理に要する費用は購入先に買掛せしめる事にして居る次第である。何れにしても日本製の是等施工機體の實力は現在が試験中なのであるから、悪い個所は次第に改良して完全なものとしたいと考へてゐる。實際の燃料消費量も恐らくカマロケに示して居るものとは相違があると思ふのであるが目下實績に基いて統計をとりつつある次第である。

（工務部 腰塚土木課長）